

開講年度	令和6年度	開講課程	博士前期課程
授業名	医療情報リテラシーA		
開講キャンパス	紀三井寺・伏虎	教室	基礎教育棟3階講義室2 中講義室304
科目区分	共通科目	配当年次	1年次
必修・選択の別	必修	単位	1単位
対象学生	—	使用言語	日本語
キーワード	介入研究と観察研究、レギュレーション、個人情報保護、コホート研究、ゲノム・オミックス解析、多変量解析、信頼性保証、医薬品情報		
担当教員 (下線：科目責任者)	医	教授 下川敏雄、教授 橋本真一、准教授 牟礼佳苗	
	薬	講師 阿部寛康、教授 伊藤達也	
授業の概要	医療ビッグデータやゲノム情報などの医療情報を取り扱う研究分野の重要性が増していることから、医療情報の処理や活用の基本的手法を倫理的な観点も含めて修得する。		
到達目標	<input type="checkbox"/> レギュレーションを順守した適切なデザインのもとで研究計画が立案できる。 <input type="checkbox"/> 種々のコホート研究の特徴と、取り扱う医療情報について理解する。 <input type="checkbox"/> ゲノム・オミックス解析手法を中心に幅広く学び、基礎的知識を修得する。 <input type="checkbox"/> 薬学研究における多変量解析の基本的事項を理解する。 <input type="checkbox"/> 臨床研究・治験で得られたデータを、信頼性のあるデータとするための手順やプロセスを理解する。 <input type="checkbox"/> 電子カルテ上の医薬品情報の基本操作や解析技術を修得する。		

授業計画	<p>1. ～2. 多変量解析の考え方や各手法の概要の説明（阿部寛康／2回） 【6/6 5限・6限】 薬学研究で活用される医療情報には様々な形式のデータが存在するが、その多くは個体×変量という表形式でまとめられる。そのような表形式データから、多くの変量間の関係をみるための多変量解析と呼ばれる統計解析手法について、基本的事項を解説する。</p> <p>3. 人を対象とする医療系研究のデザイン（下川敏雄／1回）【6/7 6限】 人を対象とする医学及び薬学研究を実施するうえで必要な研究のデザインについて解説する。</p> <p>4. 分子病態解析法A（橋本真一／1回）【6/7 7限】 ゲノム関連の悪性腫瘍、炎症疾患、感染症などについての最新のゲノム関連論文、解析法を紹介しながら概説する。</p> <p>5. コホート研究の種類や特徴の紹介（牟礼佳苗／1回）【6/10 6限】 出生コホート、地域住民コホート、疾患コホート、ゲノムコホート等各コホートで取り扱う医療情報の種類と取り扱い方法の留意点について講義する。</p> <p>6. 医療系研究におけるデータ・リテラシーと個人情報保護（下川敏雄／1回） 【6/14 7限】 医療データを扱う上で必要なリテラシーについて解説する。</p> <p>7. ～8. 医薬品情報に関する解析手法（伊藤達也／2回）【6/20 6限・7限】 臨床研究・治験では、得られたデータの信頼性保証がなければ、論文や承認申請に用いることはできない。そのため信頼性のあるデータとするための手順やプロセスを解説する。副作用防止や相互作用回避など適正な医薬品使用を推進するため、電子カルテ上の医薬品情報の基本操作や解析技術を解説する。</p>
授業の方法・形態	<p>講義を中心とする。 遠隔会議システムを利用した同時配信を行う。</p>
使用するメディア	<p>パワーポイント等によるスライド資料を使用する。</p>
成績評価の基準	<p>授業への取組20%（発問に対する応答や発言内容、主体的・積極的な受講姿勢）及びレポート80%によりS（90点以上）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、D（59点以下）の5段階で評価し、C以上を合格とする。</p>
授業時間外の学修に関する指示	<p>教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。</p>
オフィスアワー（学生からの質問事項等への対応）	<p>担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。</p>
教科書・参考書	<p>【教科書】 特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。 【参考書】 授業計画4 「ゲノム 第4版」原著者：T. A. Brown 監訳：石川冬木、中山潤一 出版社：メディカル・サイエンス・インターナショナル</p> <p>授業計画5 書籍の代わりに、各コホートのWebサイトを紹介する。</p>